

おおま

No. 岬の光 99

平成30年11月1日発行

議会だより



行政・議会議員合同の最終視察 (平成30年9月11日)

9月定例議会 主な内容

○平成30年 第3回定例会 P 2

○平成29年度歳入歳出諸決算 P 3

○2議員が一般質問 P 4～5

○新庁舎 P 6～7

○広報研修会・編集後記 P 8

第3回 9月定例会

平成30年第3回定例会を9月4日開会、9月11日閉会。
提案された議案すべて原案のとおり可決しました。

| | 平成29年度 | 早期健全化基準 |
|----------|---------|---------|
| 実質赤字比率 | △ 6.1% | 15.0% |
| 連結実質赤字比率 | △ 12.8% | 20.0% |
| 実質公債費比率 | 15.4% | 25.0% |
| 将来負担比率 | 52.1% | 350.0% |

平成29年度
財政健全化
審査意見書

| | 資金不足比率 | 経営健全化基準比率 |
|--------------|--------|-----------|
| 大間町水道事業会計 | 0.0% | 20.0% |
| 大間町下水道事業特別会計 | 0.0% | 20.0% |

平成29年度
経営健全化
審査意見書

留意改善を要する事項、一般会計の収入未済額は、1億620万6千円で、このうち主なるものは、町税1億385万2千円である。特別会計等の収入未済額は、3億3588万6千円で、前年度より2760万6千円(8.2%)減少している。このうち主なるものは、国民健康保険特別会計2億4531万8千円。介護保険特別会計1455万2千円。水道事業会計489万1千円。奨学基金貸付金2421万円である。

平成29年度
歳入歳出
諸決算

税条例の一部改正
税条例の一部を改正する条例は原案のとおり可決されました。

平成30年度
一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ1億7656万円を追加し、予算総額を66億2592万円とした。

平成30年度
国民健康保険
特別会計補正予算

歳入の組替補正であり、歳入歳出予算総額9億338万円。

平成30年度
介護保険
特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ19万円を追加し、予算総額を6億5236万円とした。

大間町過疎地域
自立促進計画の
変更について

過疎地域自立促進特別措置法
(平成12年法律第15号)

第6条第7項の規定により準用する同条第1項の規定に基づき議会で議決されました。

人事案件

大間町教育委員に高松大助氏が全員一致で任命されました。



高松大助 氏

※在任中の委員

宮野 成厚 氏
佐藤恵美子 氏
小向 英徳 氏

第3回 9月定例会

歳入・歳出諸決算審査特別委員会 平成29年度 歳入・歳出諸決算を



財政収支

(円)

| | 一般会計 | 国民健康保険 特別会計 | 後期高齢者医療 特別会計 | 介護保険 特別会計 | 下水道事業 特別会計 |
|-------|-----------|----------------|-----------------|--------------|---------------|
| 収入済額 | 45億3,732万 | 9億9,270万 | 4,546万 | 6億9,630万 | 2億4,646万 |
| 支出済額 | 43億8,894万 | 9億3,678万 | 4,343万 | 6億6,727万 | 2億4,646万 |
| 差引残額 | 1億4,838万 | 5,591万 | 203万 | 2,903万 | 0 |
| 基金繰入金 | 1億1千万 | 5,391万 | | 2,903万 | |

※千円以下は切り捨てておりますので1万円の差がでている箇所があります。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額7385万円は、当年度分消費税資本的収入調整額72万円、当年度分損益勘定留保資金6176万円、繰越利益剰余金1136万円で補填した。

(円)

| 水道事業会計 | 収益的収入及び支出 | 資本的収入及び支出 |
|--------|-----------|-----------|
| 収入済額 | 1億7,161万 | 271万 |
| 支出済額 | 1億5,642万 | 7,657万 |

監査委員から
留意改善点

決算収支は黒字となっているが、引き続き弾力性に欠け厳しい状況下にある。節減を図りながら事業運営をしている努力は十分理解できるが、不用額が多い点があり、今までの努力が必要とされる。義務的経費が大きく経営収支比率も財政運営上注意を要する水準に達している。これらの事から財政健全化への取り組みを着実に進め、コスト意識を更に高め厳正かつ的確な財務の執行に努め、透明性を確保し、町民に十分な説明責任を果たすよう留意されたい。

※義務的経費

歳出における人件費、扶助費、公債費のことで、削減が難しいとされている経費のこと。

※経営収支比率

経常収入を経常支出で割った値、値が低ければ低いほど財政運営に弾力性があり安定。

一般質問



岩泉 盛利 議員

町民に喜ばれる運動公園や運動施設建設の計画について

問 子供から老人まで楽しめる運動公園、それに隣接する運動施設があれば年中通して健康維持ができると思います。

公園には花を生け。車椅子でも利用可能な公園づくりにより、町内外の人々のふれあいの場となり、気持ちの和み、長寿にも繋がると考えます。

「私は夢を語っているわけではない。夢物語で終わらないためにも

ひと・しごと創生総合戦略、大間町過疎自立促進計画などに具体的には明記されていません。その要因は多額の建設費用と財源確保にあります。

この計画をぜひ進めてもらいたい。大間といえはマグロであり、そのマグロを食するため県内外から集まる観光客のため。また町の活性化のためにも先見の目で進めてもらいたい。その場その場逃れの答弁でなく、実のある答弁を期待する。」

町長答弁 町民に喜ばれる運動公園や運動施設の計画についてであります。現在町の総合計画、大間まち・

るといいうのみならず、如何に効率的に運営していくかという議論も含め協議をしていき、今後の課題とさせていただきます。

如何にある施設を有効に活用していくことで今は取り組んでいる。今後は質問にあります子供から年寄りまで利用できる施設。役場庁舎跡地、旧病院の跡地も含めて、ここに健康福祉、レクリエーションなど世代を超えたふれあいの場の機能を持つ複合施設の計画を進めていきたい。空洞化する町の中心部に賑わい、人の集まる施設をつくりながら公園化をし、その近辺にある神社やお寺も含めた公園化ができればという思いをしています。運動公園の構想については、今考えている計画の中で実現化していきたい。多くの町民やスポーツ団体、体育協会などを通じて施設を造

活用に関しても、職員に会議の折に話をしている。厳しい財政状況の中、如何に地域住民の希望に応え今後も進めてまいりたい。

再質問 ただいま旧施設などを利用してスポーツができる施設づくりに対しては、費用がかかるという答弁がありました。

私は公園や施設の建設に関わる原子力発電所の工事再開が2年延期。運転開始も先送りとなり、年間数十億円の固定資産税も当分見込まれず厳しい財政運営が続くことになりました。8年先、9年先を見据えて計画を進めてもらいたい。何か新しい補助を活用しての地域振興に伴う事業や、整備などができないものか。

町長答弁 今の運動施設に関わる部分については、今後の課題として教育委員会と連携を取り、準備を進めていきたい。制度事業の

介していただきました。この制度を如何に活用していくか、物ありきにならないよう十分検討し、将来本当に良かったという施設をつくるため協議を進める。

再質問 私の考えは施設や公園を建設することにより雇用の場が広がり、町内はもちろんのこと県外からも観光客が多く集まり憩いの場となり、地域振興にも繋がると思う。事業については国の都市公園事業補助があり、地方公共団体が行う公園設備を推進する事業で、国が定める政策課題の対応に交付する個別補助金と、地方団体がより裁量的に執行できる統合的な補助金があります。国の補助率は用地に対して3分の1で、施設には2分の1となっております。施設の補助には園路広場、修景・休養・遊業・運動施設が含まれている。職員に指示をすれば実現ができる。

町長答弁 制度を紹

一般質問



野崎 信行 議員

問一 「大川目地区農業振興地域」指定解除について。

町長答弁 水田耕作者がいる以上、解除できません。

問二 「鳥取県・千葉県の巻き網漁禁止」について。

町長答弁 一本釣り、はえ縄の優位性を各方面に訴え、漁獲配分の確保に努めてまいります。

問四 「奥戸中学校」有効利用について。

町長答弁 今後の課題となっております。

問七 「ゴミ回収車」について、小型車を導入したかどうか。

町長答弁 現時点では考えてございません。

問八 30年以内に発生が予想される「北海道南部地震」について。

町長答弁 今後も重要課題として取り組んでまいります。

問十五 電源三法交付金、県への配分38億2260万円について。

町長答弁 継続して要望してまいります。

問二十三 「中間養殖」について。

町長答弁 中間育成を行わない。

問二十六 「移動役場」について。

町長答弁 移動役場はやらないで町内会懇談会を開催する。

問二十九 「農業振興地域解除」について。

町長答弁 その考えはございません。

問四十 町役場に「ネットカフェ」機能を持つ場所設置について。

町長答弁 活用いただきたいと思っております。

問四十四 「西目屋村子育て移住・土地無償提供」について。

町長答弁 考えはございません。

問四十八 「大畑オフサイトセンター」について。

町長答弁 避難道路が前提となることを申し添えております。

問五十二 「電源開発ケーブル損傷」について。

町長答弁 私からの答弁は差し控えていただきます。

問五十三 「大畑オフサイトセンター」行き「オスプレイ」導入について。

町長答弁 答弁は差し控えていただきます。

問五十四 「原子力研究開発推進自治体協議会」開催について。

町長答弁 当町は該当していません。

問五十七 「大畑オフサイトセンター」に行けない大岡町民のために、シェルターボックスの設置を。

町長答弁 オフサイトセンターは避難施設ではありません。

せん。今後、避難方法等を明らかにしてまいります。

問六十 「町議会・動画中継」について。

町長答弁 私が答弁する事項でないと認識してございます。

問六十一 「ドローン」活用について。

町長答弁 有効に活用してまいります。

問六十二 「自治体・同窓会補助」について。

町長答弁 弘前市の取組みの効果を注視してまいります。

67の質問の中から19を掲載いたしました。
(記)野崎

の夢が完成



大間町民が切望しておりました役場新庁舎がいに完成。
9月14日(金)と、9月23日(日)は午前中、町民のための内覧会を実施した。実質11時間での入場者は459名を数え、盛況をきわめた。



内覧会の様子

大間町議会編集委員会が発行している大間議会広報紙(岬の光)では、29年8月1日発行の「94号」で、役場庁舎建設工事の安全祈願祭を取り上げてから今回の「99号」まで、毎号、町民の皆様にご事進捗状況をお知らせして来た。

「95号」では、表紙の写真で、新庁舎の基礎工事状況を。「96号」では、新庁舎現状報告。作業の進捗状況はだいぶ遅れているが、今後、外壁工事が終われば遅れを取り戻せるとの報告を記載。「97号」で、完成まであと4ヶ月と題して、平成30年第1回大間町議会定例会終了後、建設工事現場を視察、感想を取り上げている。

「98号」では、平成28年3月30日の「大間町公共施設配置計画策定・建設特別委員会」開催からの流れと、「完成内覧会」の案内を記載。そして、今回の「99号」で完成の報告となったわけだが、これまで5回の報告をしながら、毎回これでいいのだろうか？



一階町民ホール

自分自身、設計図を見ながら議会で説明を受け、想像したのと違ったと思える箇所が有る。役場を利用する町民の方々も、議会広報紙や、町報を見て想像を巡らせ期待をしてきたと思いますが、想像通りだったのか、期待外れだったのか気になる。

町民の長年

想像を超えた使いよさ

2階の1/3強を議会関係に与えられている。

「97号の完成まであと4ヶ月」の感想で、議場が狭く感じられると報告したが、完成してみると狭さは全く感じられず、大変立派な議場が出来上がった。

大間町の議場の特徴

として、非常時に対応するため議長席を一段高くしただけで、あとの床面をフラットにしたことにある。

会議では、他の市町村のように、ひな壇にしてほしいとの意見も

あったが、非常時に多目的な活用が出来るようにと決定したのが正解だった。

議長室・議員控室・小会議室・中会議室・議事事務局の5部屋が与えられている。

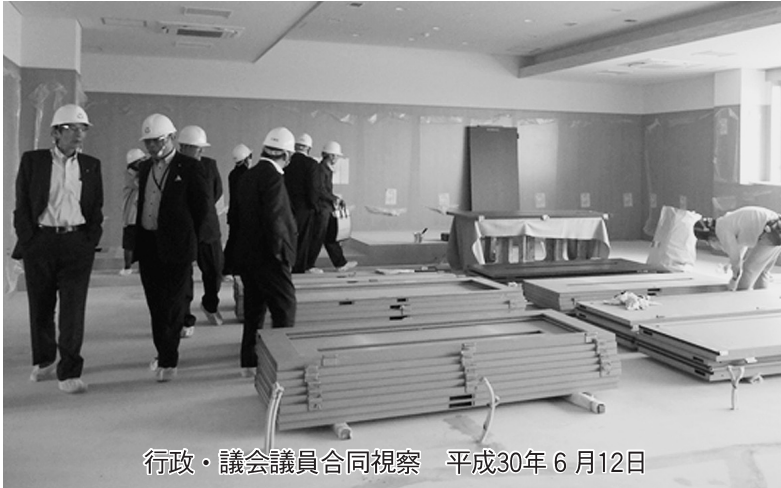
旧庁舎にも正副議長室はあったが、名前だけで、使い勝手が悪

く、全然活用されていなかったように記憶している。

議員控室に至っては手狭で、議員全員が座ると窮屈すぎて数名の議員は、傍聴席に座って時間を過ごすありさまだったが、正副議長も議員控室も大変立派な部屋が与えられ

た。

入れ物が立派になったが、議員の資質は？活動は？と町民から揶揄(やゆ)されないように全力で、尚且つ、真摯に取り組む姿勢を見せて行かなければ、町民に軽蔑されかねないのでは。
(記)加藤



行政・議会議員合同視察 平成30年6月12日



完成の議長席からの眺め



内覧会での議場

平成30年度 町村議会広報研修会

シェンバツハ・サボー 東京 平成30年10月10日

広報研修会が開催され、全国205町村議会から広報に関わる議員が東京都平河町砂防会館に集まり、地域の皆さんに関心をもってもらえる広報、一人でも多くの皆さんに読んでもらえる広報を目指して、13時から17時まで4時間研修を受けました。

我が大間町は広報編集委員6名が毎年2名ずつ交代で出席しており、今年も千代谷議員、宮野議員が出席しました。

一、読み手に伝わる文章の書き方

と題して朝日新聞メディアプログラムシヨンの前田安正氏

二、デザインの力で、もっと伝わる議会広報誌に

と題してコンセントアートディレクター筒井美希氏

三、最優秀賞、優秀賞作に見る光彩を放つ編集力

と題してグラフィックデザイナー・長岡光弘氏
全国の優秀な広報誌を目の当たりにして、もっとと勉強の必要性を感じた研修でした。

(記)宮野



分かりましたヨ!

議会だより98号(8月1日発行)の8ページで、虎尾鎮から大間町役場の新築祝いに寄贈された扁額の文字が読めない。意味が分からない。との記事を読んだが、記事を読んだ町民から名前を伏せることを条件に、謎を解いてくれましたので紹介します。

●読み方 彌成民治(ひっせいみんじ)
●意味 報酬のためでなく、もくもくと民のために働く「美德」



議員控室の壁に飾られた「彌成民治」の扁額

編集後記

秋も深まり、大間特有の風の強い季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も、マグロ漁獲規制により漁業関係の方には非常に厳しい年となっております。

2001年から毎年行われていた大間超マグロ祭りも中止となり、町の活気も落ちていくように感じられますが、これらの状況に負けない様、町民の皆様には頑張ってもらい、今後の景気回復に期待したいと思います。

(記)佐々木

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 弘

宮野 昭一